



第6回考古学講座 2020. 1. 18

於 かながわ県民センター 2階ホール

# 縄文と弥生の埴埜—平沢同明遺跡

秦野市文化スポーツ部生涯学習課 大倉 潤

秦野市立南小学校西方、神奈中バス折返点「畑中」バス停周辺の小田急線の南方に広がる微高地上に位置する平沢同明遺跡は、東日本でも数少ない縄文時代から弥生時代への移行期の様相を示す遺跡として注目されてきた。

この遺跡に最初に発掘調査が行われたのは、今から 54 年前のことで、当時、南関東で確認されていた最古の弥生土器は、中期前葉のもので、その土器は出土地の足柄上郡山北町字堂山の字名をとって「堂山式」と呼ばれていた。

しかし、平沢同明遺跡で縄文時代終末の土器と共に弥生時代前期にまでさかのぼる土器が発見されたことにより、南関東における弥生時代の開始時期が見直されることとなった。



図1 平沢同明遺跡位置図



**写真1 上空からみた平沢同明遺跡（1997年5月撮影）**

平沢同明遺跡から出土した最古の遺物は、16000年ほど前の縄文時代草創期の「有舌尖頭器」という槍先として使用された石器であるが、単独出土であり、人々の生活の場として積極的に利用されたとは考えられない。

2004-05地点の調査では縄文時代早期、前期の土器片が出土しているものの、微細な破片数点にとどまっている。

この地が集落として発展して行くのは縄文時代中期以降になってからと考えられ、これまでの調査で縄文時代中期後葉の土器を埋設した遺構や、土壇墓と思われる遺構が検出されている。

秦野盆地内では、縄文時代中期後葉から後期前葉にかけて各地に集落が営まれており、東地区の寺山遺跡、西地区の堂坂遺跡、北地区の稲荷木遺跡、平沢同明遺跡周辺でも太岳院遺跡や今泉峰遺跡などが知られている。平沢同明遺跡においても縄文時代中期～後期の遺構群の広がる範囲は、晩期以降のものより大きなものとなっている。

しかし、平沢同明以外の上記の遺跡にあつては、縄文時代晩期までに集落の規模が大きく縮小し、弥生時代初頭まで継続して多くの遺物を出土するのは平沢同明遺跡のみである。

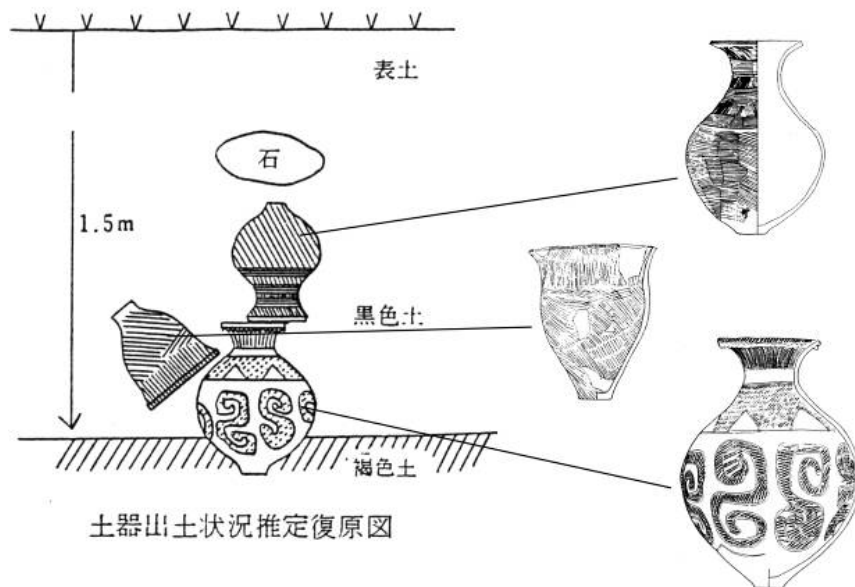


図2 平沢同明遺跡で検出された再葬墓と思われる遺構

昭和41年、小田原城内高等学校の教諭であった杉山幾一（博久）氏は、秦野市今泉から通う生徒から、自宅付近に土器や石器が多量に採集できる畑があるという話を聞き、この遺跡（平沢同明遺跡）の発掘調査を計画した。

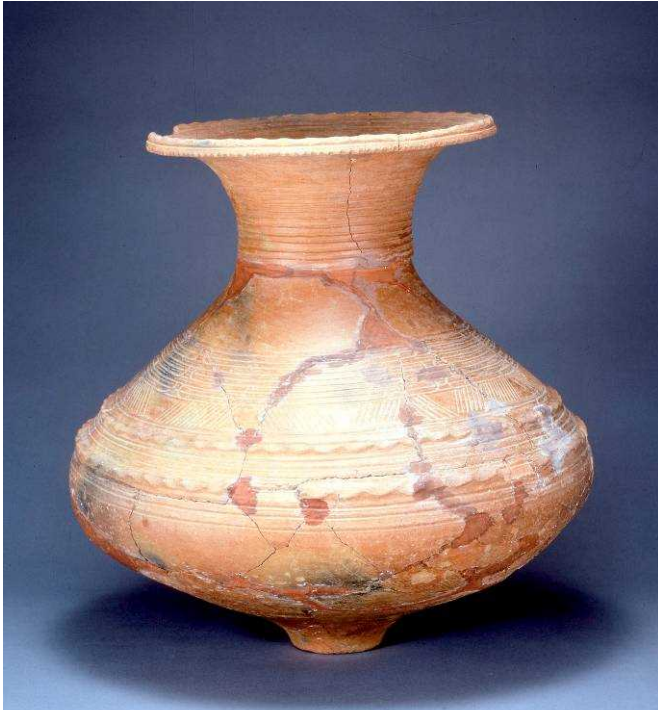
調査の準備をすすめるうち、杉山氏は加藤孝三氏が屋敷地内から発掘した資料に出会う。この資料は壺形2点、甕形1点の完形土器で、一括して埋納されたかと思われるような出土状態であったという。杉山氏は、これらの土器が相模湾西北部地域の弥生時代中期初葉の「堂山式」土器である点に注目し、昭和42年『秦野市平沢遺跡出土の弥生式土器について』と題する小冊子の形で報告した。

「堂山式」の標識資料は足柄上郡山北町で出土したものであったが、器形がわかるような資料が無かったため、この平沢同明遺跡の一括資料が考古学の概説書等で「堂山式」を示す好資料として紹介されるようになった。

杉山氏による発掘調査は昭和41年8月10日から12日まで（第1次調査）、12月25日から27日まで（第2次調査）、昭和42年3月26日から28日まで及び31日（第3次調査）、7月23日から29日まで（第4次調査）、昭和43年7月24日から8月5日まで（第5次調査）と断続的に行なわれ、5次にわたる発掘調査の出土遺物はリング箱25箱に及んだ。

特に注目されるのは第4次調査で、弥生時代前期末とされた「遠賀川系土器」がほぼ完形で出土したことであり、当時の新聞記事でも大きく取り扱われ、平沢同明遺跡の重要性がまた一段と増した。

この土器は、平成15年2月10日に「秦野市平沢同明遺跡出土の弥生前期壺形土器」として神奈川県重要文化財に指定された。



**写真2 神奈川県指定重要文化財  
「秦野市平沢同明遺跡出土の弥生前期壺形土器」**

この土器は、北部九州地方で成立した「遠賀川式」土器の系統をひくものであり、神奈川県域へ弥生文化をもたらした象徴的な資料であるという位置づけがなされている。

「遠賀川式」土器は西日本の弥生時代前期の土器の総称で、例は少ないもののその影響を受けた土器が関東東北地方でも出土している。これらの土器を本場のものと区別して「遠賀川系」土器などと呼んでいる。

平沢同明遺跡の第4次調査で出土した遠賀川系土器は、その最も新しい段階に伊勢湾岸で地域化した大型壺で、赤褐色を呈し、胴が大きく張り出すなどの

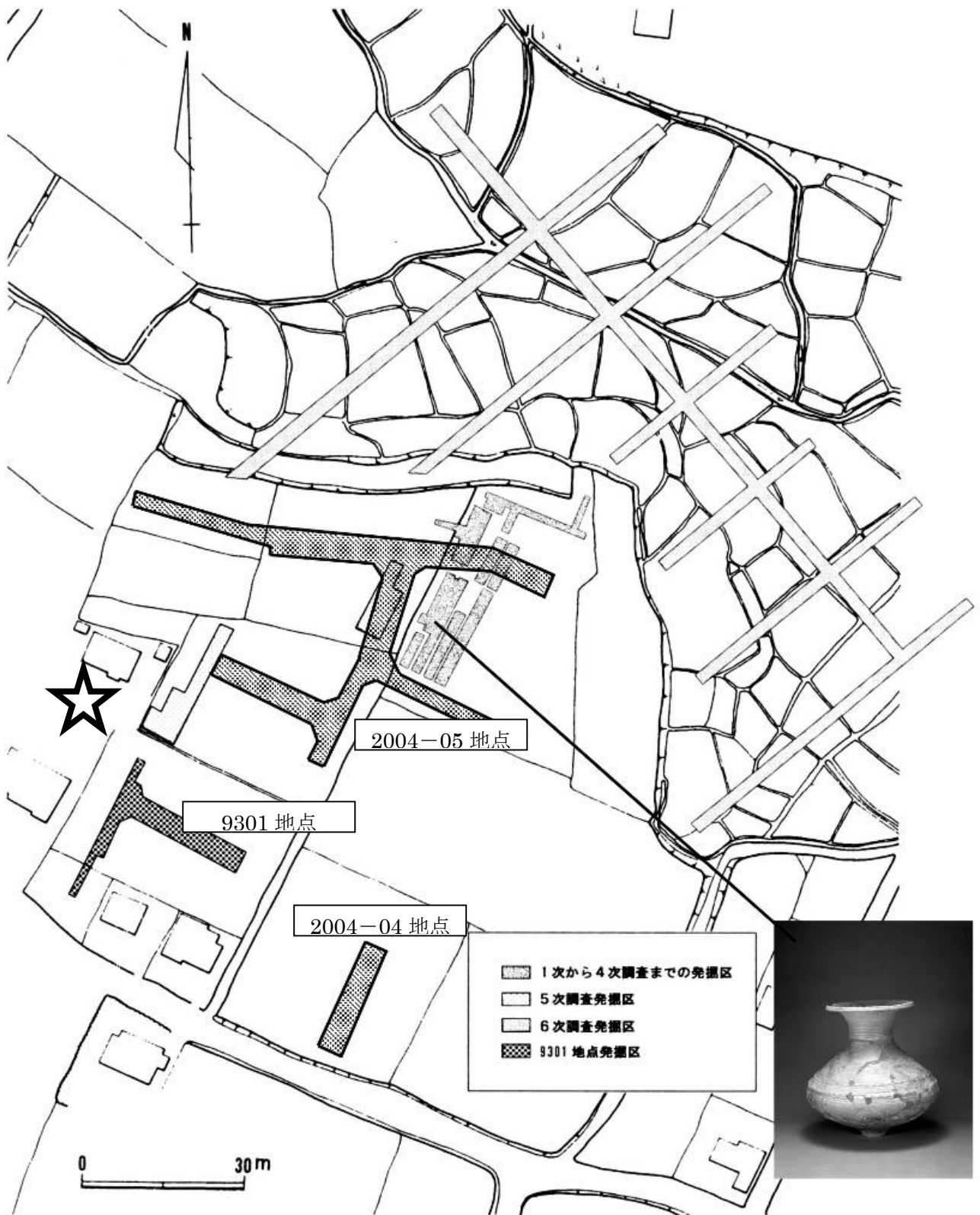
特徴がある。

上部に人頭大の石が置かれた状態で単独で埋設されており、内部から粉末状の骨らしきものが検出されたことから、再葬墓（一度埋葬し骨化した遺体を土器に収納しなおして埋葬した墓）と考えられている。

平沢同明遺跡では、これまでの調査で十数個体分の「遠賀川系」土器が検出されているが、この数は東日本では群を抜いて多く、神奈川県重要文化財指定の壺形土器のようにほぼ完全な形のは本場の伊勢湾岸にも稀な資料といえる。



**写真3 「弥生前期壺形土器」出土状況**



☆は、一括資料とされた三個体の土器が検出された地点

図3 平沢同明遺跡の調査区配置図

第5次調査で検出されたF9b土壌からは「遠賀川系」の壺形土器口縁～頸部周辺破片に伴い、在地性の強い条痕紋甕形土器、東北の亀ヶ岡式の影響を受けた鉢形土器が出土した。

鉢形土器は文様から、当時神奈川県内で出土例の少なかった縄文時代最終末期のものとなされ、それが遠賀川系土器と同時に使用、廃棄されたことを示すこの一括資料は、まさに南関東における縄文時代から弥生時代への移行期のものとして重要なものと考えられた。

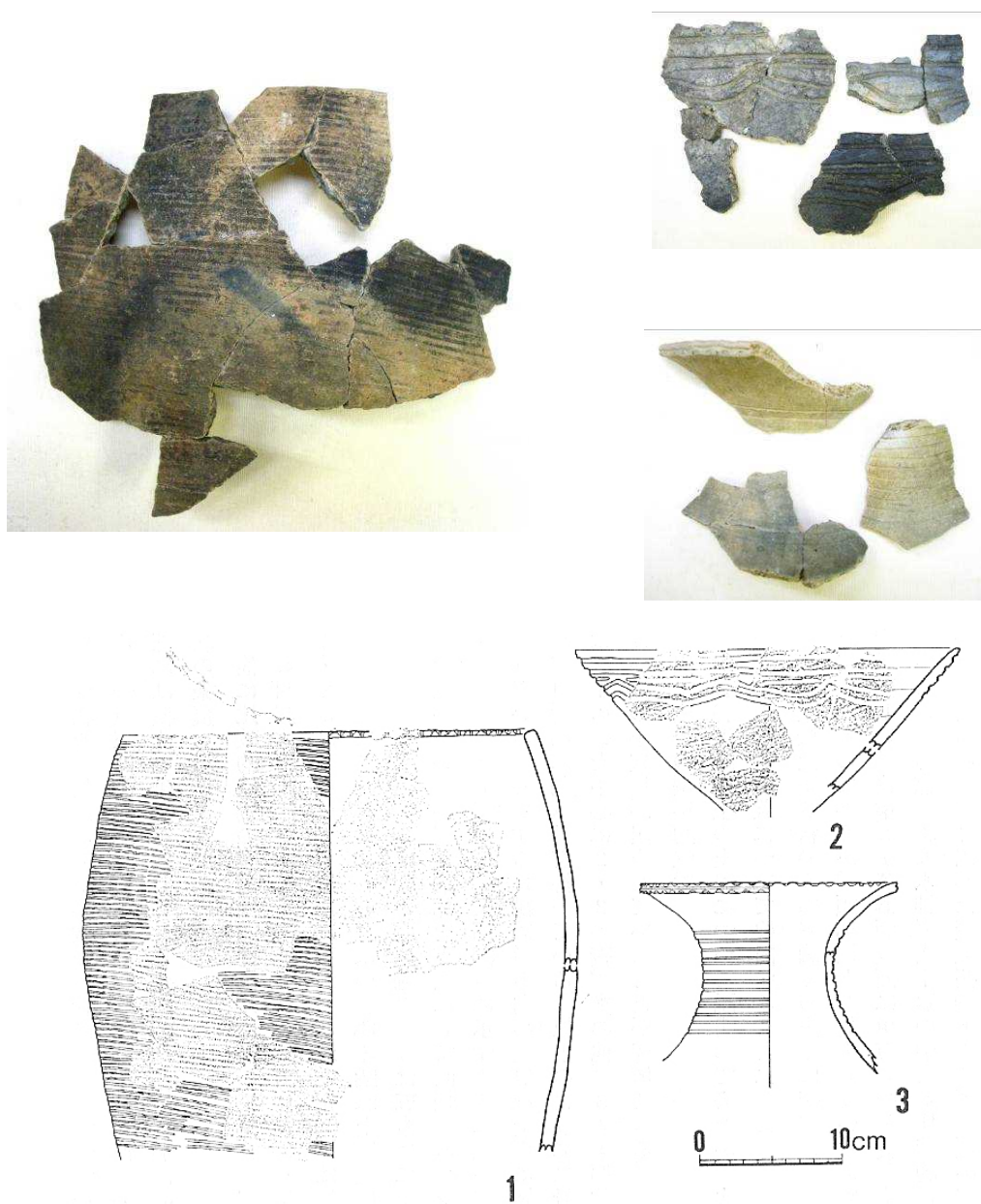


写真4. 図4 F9b土壌一括資料

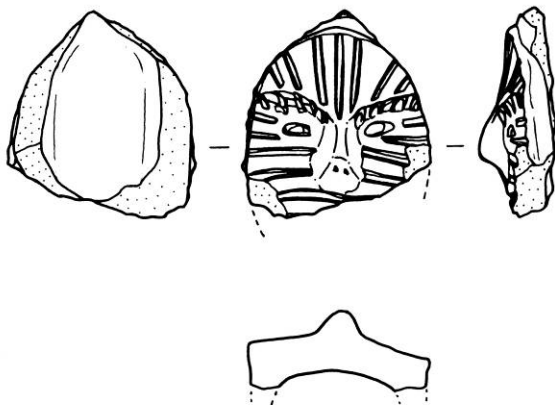


図5 9301 地点出土の土偶形容器と大井町中屋敷遺跡出土の土偶形容器

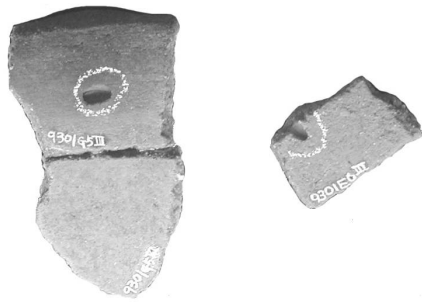
平沢同明遺跡にあっては縄文時代晩期から弥生時代初頭の遺構は、遺構が掘り込まれた土層と、それを埋めた土の区別がつきにくいことから検出が非常に困難である。このため、これまでの調査で大量の遺物が出土しているにもかかわらず住居跡は一件も確認されていない。しかし、煮炊きに使われた形跡のある土器や、イノシシやシカの歯や骨片が出土し、焼土の痕なども検出されているため、集落が営まれていた事は確実と思われる。

これまでの調査で出土した遺物のうち土器以外のものに目を向けると、まず多様な祭祀関連と思われる遺物が目に付く。破片とはいえ類例の少ない土偶形容器や、複数の土偶をはじめとする土製品が出土しており、石器では、石剣や独鈷石、石冠などが出土しており、こうした石器類の多くは火を受けて割れている。

また、石鏃の多さも特筆され、この地では1990年代ぐらいまで、畑の中から黒曜石や黒色安山岩製の石鏃が採集でき、これまでの発掘調査の出土品や採集品を合わせると千点をはるかに超える。

既述のイノシシやシカの歯や骨片の出土とも合わせて考えると、恐らくは縄文時代の終末期に、かなり狩猟に偏った生活をしていたことが想定される。近年の新東名関連の発掘調査で、台地上で確認されている多数の落とし穴もこの事を裏付けている。あるいは遺跡北側の湧水地にこれらの動物がやって来たのかも知れない。

祭祀遺物はその収獲の多からんことを祈ったものだったのであろうか。



**図6 9301 地点出土  
 靱痕らしき圧痕が付いた土器片**

平沢同明遺跡出土の土器片にイネの靱痕とされる圧痕が確認されたり、大井町中屋敷遺跡からイネの種実遺体が確認されており、2004-04 地点・2004-05 地点の発掘調査報告書では弥生時代前期末に平沢同明遺跡周辺に「イネを持った弥生文化の伝播とその初期的需要」があったと結論付けている。

この見解を否定するものではないが、一方で盛んに狩猟を行っている状況を勘案すると、平沢同明遺跡を残した集団の社会的多様性が浮かび上がってくる。「縄文と弥生の垣塙」と呼ぶ所以の一つである。

また、大量の遺物が出土する割に遺構として住居跡が確認できないという事実をどのように考えるのか。竪穴建物や土壇などが限られた場所に繰り返し築造、廃棄されて確認が困難となっている可能性も否定できないが、これまでのような民間開発に伴う道路部分範囲の発掘調査では把握できなかつただけかもしれない。

また、周辺で確認できるニセロームという明褐色土層が縄文時代晩期～弥生時代前期遺物集中部分に限って確認できない事も遺跡内の試掘調査で判明してきているが、遺跡がどのように形成されたかを知りうるだけの手掛かりとはなっていない。

いずれにせよ、平沢同明遺跡は、謎に満ちており、それだけに魅力的である。

## 文 献

- 杉山博久 1967『秦野市平沢出土の弥生式土器について』  
 杉山博久・平野吾郎 1969「神奈川県秦野市平沢同明遺跡の調査」『古代』第 52 号  
 杉山幾一 1971「秦野市平沢同明遺跡調査概報」『秦野の文化財』第 7 集  
 杉山博久・松浦有一郎・設楽博巳 1981「秦野市平沢同明遺跡の調査」『第 5 回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』  
 平野吾郎 1985「伊賀谷遺跡出土の土器について」『古代』第 80 号  
 日野一郎・伊東秀吉・杉山博久 1985「平沢遺跡」『秦野市史 別巻 考古編』  
 谷口肇・村上吉正 1993「秦野市平沢遺跡採集の遺物について—縄文時代晩期を中心に—」『神奈川考古』第 29 号  
 宮原俊一 2003「秦野盆地における縄文時代晩期の土器群—平沢 9301 地点出土資料と周辺遺跡の様相」  
 『桜土手古墳展示館研究紀要』第 4 号  
 大倉潤 2004「平沢遺跡 9301 地点の土偶形容器」『桜土手古墳展示館研究紀要』第 5 号  
 宮原俊一・大倉潤 2005「神奈川県秦野市平沢遺跡 9301 地点出土資料の検討Ⅰ」『桜土手古墳展示館研究紀要』第 6 号  
 戸田哲也 2005「秦野市平沢同明遺跡—0404 地点・0405 地点—」  
 『第 29 回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』神奈川県考古学会  
 大倉潤 2006「神奈川県秦野市平沢遺跡 9301 地点出土資料の検討Ⅱ」『桜土手古墳展示館研究紀要』第 7 号  
 杉山博久・平野吾郎 2006『同明遺跡（第 4 次発掘調査報告書）』  
 戸田哲也ほか 2010『神奈川県秦野市平沢同明遺跡発掘調査報告書（2004-04 地点・2004-05 地点）』  
 戸田哲也ほか 2012『神奈川県秦野市 堂坂遺跡 寺山遺跡 寺山金目原遺跡 平沢同明遺跡』